

氏名	古 谷 生
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1492 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和59年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学 位 論 文 題 目	急性腎不全の腎組織病変に関する研究 第Ⅰ編 急性腎不全患者の腎組織について 第Ⅱ編 実験的虚血腎の経日的組織細胞学的変化とその病態病理について ——光顕および電顕における観察——
論 文 審 査 委 員	教授 小川勝士 教授 太田善介 教授 大森弘之

学位論文内容の要旨

急性腎不全（Acute Renal Failure, ARF）は急激な腎機能障害、腎実質障害から尿毒症に進展する症候群である。

ARF は、その発症要因および発症機序に関して多くの研究があるが、いまだ完全に解明されていない。

第Ⅰ編では、ARF12例を臨床的にDIC群（8例）と非DIC群（4例）に区分し、生検腎組織（1例は剖検）を病理組織学的に検討し、ARFの発症要因と発症機序および予後について考察した。その結果、ARFの発症には、腎虚血を前駆病態とし、DIC病態が要因となり、その程度が経過、予後に大きな影響を有することが明らかとなった。DICの関与は尿細管のみならず、糸球体の障害を伴っており、糸球体壊死の程度が腎機能の回復を左右していると考えられた。

第Ⅱ編は、腎虚血を前駆病態とし発症するARFの発症機序を解明する目的で動物実験を行った。実験は家兎（25羽）を用い、腎を90分間完全虚血とし、再血流直後から30日間にわたり、腎の障害と回復過程を光顕と電顕を用いて観察した。

その結果、90分虚血を前駆病態とするARFは再血流直後よりDIC病態の発来を誘因に発症するものと結論した。

論文審査の結果の要旨

本研究は、急性腎不全患者の腎組織を病理組織学的に検索し、特に PTAH 染色陽性物質の出現状態に注目して本症の発現には腎虚血により DIC が発現し、これが症状と経過に重要な影響を及ぼすことを明らかにすると共に、家兎を用いて実験的腎虚血における腎障害と回復過程を光顕・電顕的に検索しこれを追証したものであるが、急性腎不全の発症機序における DIC の重要性を指摘したものとして価値ある業績であると認める。よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。